

カナエル リフォームフロア

カナエル リフォームフロア VC

施工のポイント

※施工については必ず、施工説明書に従って正しく施工してください。

木質床材

施工上のご注意

- 本製品は一般住宅向けリフォーム専用の粘着フロアです。既存の床面の上から貼付けて施工します。既存の床面が施工できる床面であることを確認してください。
- 著しく高温、低温、多湿、乾燥する部屋には施工しないでください。木質基材の伸縮により、大きなすき間又は突き上げ等が発生する場合があります。

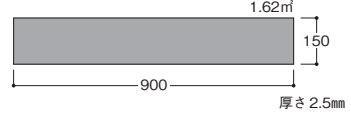
 施工できる床面	◆表面が平滑な木質系または樹脂系の床面 ・木質系床材(捨貼りフロア、直貼り/防音フロア等) ・樹脂系床材(Pタイル、塩ビタイル、長尺シート等) ◆木質下地材(合板等)
 施工できない床面	◆表面にクッション性のある床面(CFシート等) ◆床暖房用の床面 ◆布地の床面(カーペット等) ◆下地に固定されていない床面 ◆不陸(波打ち)/反り/段差が下記の床面 ・不陸: 1mにつき4mm以上 ・反り: 30cm幅で1mm以上 ・段差: 0.5mm以上 ◆水分を多く含んだ床面(含水率14%以上) ◆その他 コンクリート、畳等

- 施工箇所に扉がある場合、本製品を施工しても扉開閉時に下端がすらないことを事前に確認してください。
- 本製品を一度貼付けた後に剥がす場合、下地が破損することがあります。あらかじめご了承ください。
- 本製品は濡れる可能性があるトイレ/洗面所/脱衣所/浴室等に使用しないでください。
- 本製品は著しく高温/低温/多湿/乾燥する部屋には使用しないでください。
- 本製品は床下換気/地面からの防湿処理がされていない部屋には使用しないでください。
- 本製品は下地床材の実が破損している部屋には使用しないでください。
- 本製品は長手方向に連続して8枚以上(7.2m以上)施工しないでください。
- 本製品は室温が5℃以下となる部屋で施工しないでください。
- 本製品は水分/ホコリを大変苦手とします。施工前に取除いてください。
- 本製品を施工中にキズを付けたり、表面に硬いものを落とさないでください。
- 本製品は水のかかる場所や直射日光のあたる場所に保管しないでください。
- 本製品は壁等に立て掛けて保管しないでください。

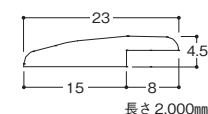
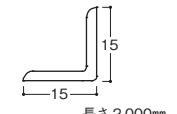
施工する前に

■部品・部材一覧

▼梱包内容

部品/部材名	リフォームフロア
部品/部材図	
数量(単位)	12(枚)

▼別売部品

段差見切り	壁際見切り
	
2(本)/梱	2(本)/梱

▼本製品を施工するには、別途以下の工具や部材が必要です。あらかじめご用意ください。

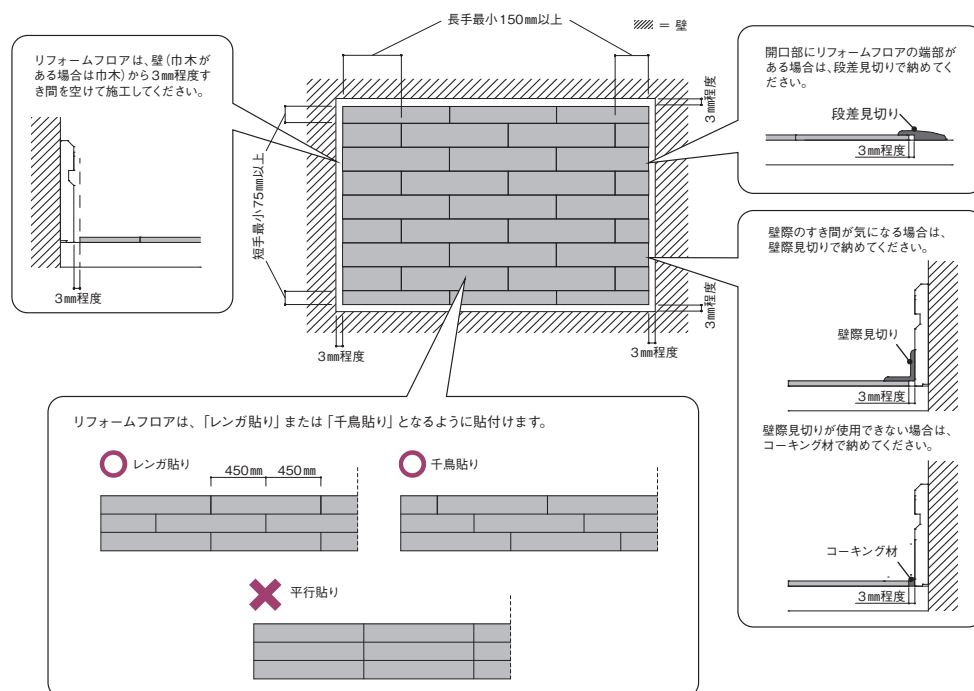
- ・カッターナイフ および 替え刃
※刃幅18mm以上
- ・鉛筆
- ・メジャー
- ・直定規
- ・差し金
- ・カッターマット*1
- ・軍手*1
- ・コーキング材*2
- ・紙ヤスリ*2

*1カッターナイフによる切断時

*2必要に応じて

■納まり例

本製品は、納まり例に記載のすき間/最小寸法を守って施工してください。
また、既存の床面の継ぎ目とリフォームフロアの継ぎ手はできるだけずらして施工してください。



ラスカット

構造用 ハイベストウッ

P&C-MJ SYSTEM

設計・施工 資料編

製品掲載 ページ

カナエル リフォームフロア カナエル リフォームフロア VC

施工のポイント

※施工については必ず、施工説明書に従って正しく施工してください。

■施工床面の清掃および補修

本製品を施工する床面を清掃し、ゴミ／ホコリを去除してください。
既存床面にワックスが塗布されている場合、ワックス除去剤等を使用し、去除してください。

既存の床面に不陸(波打ち)や段差がある場合、カンナ等で平らに補修してから施工してください。

既存の床面に床鳴りが発生していて気になる場合は、本製品の施工前に床鳴りの補修をしてください。なお、床鳴りの補修は専門業者にご相談ください。

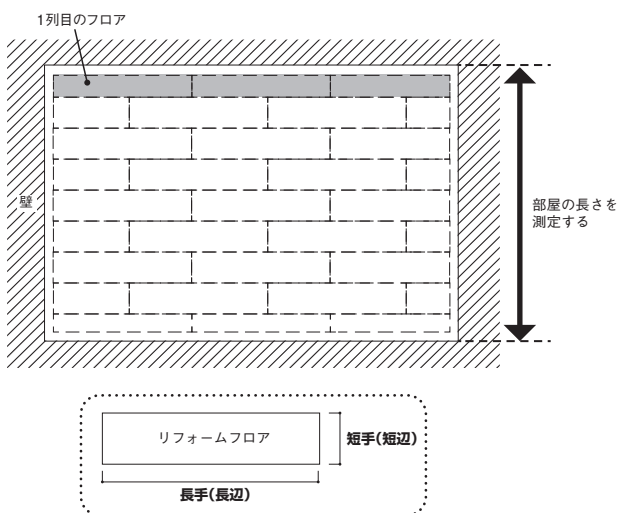
⚠ 拭き掃除をした場合は、水分がなくなるまで乾燥させてください。

施工手順

■1列目のリフォームフロアの切断要否

1.1列目のリフォームフロアの短手を切断するか判断する

①本製品を施工する部屋の壁から壁までの長さを測ります。



- ⚠ ●巾木が施工されている場合は、巾木間の寸法を測ります。
●部屋の複数箇所を測り、いちばん長い寸法を使用します。

②以下の計算式で小数点以下を確認し、リフォームフロアの短手を切断するか判断します。

▶リフォームフロアを切断するか判断するための計算式

(部屋の長さ-6mm)÷150の小数点以下を確認

0.5以上の場合	切断不要
0.5未満の場合	短手を75mmに切断

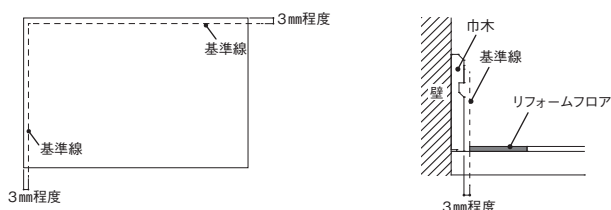
<例>

- ・部屋の長さが3,000mmの場合: $(3,000-6) \div 150 = 19.96$
小数点以下が0.96のため、**切断不要**
- ・部屋の長さが3,030mmの場合: $(3,030-6) \div 150 = 20.16$
小数点以下が0.16のため、**75mmに切断**

■墨出し

2.貼始めの位置を決め、基準線を引く

壁(巾木がある場合は巾木)から3mm程度すき間を空けて、リフォームフロアの貼始めとなる基準線を引きます。



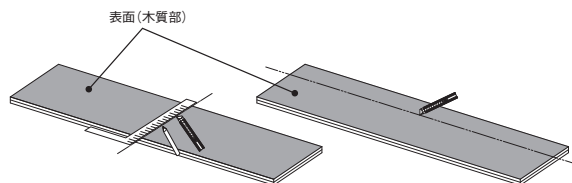
■リフォームフロアの切断

3.リフォームフロアを切断する(1列目を切断する場合)

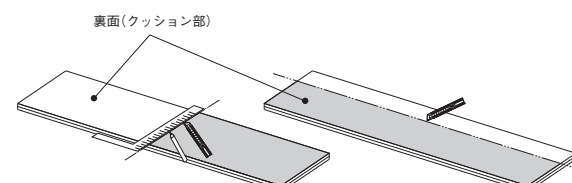
①リフォームフロア表面の切断位置に、鉛筆で印を付けます。

▶カッターナイフを使用する場合

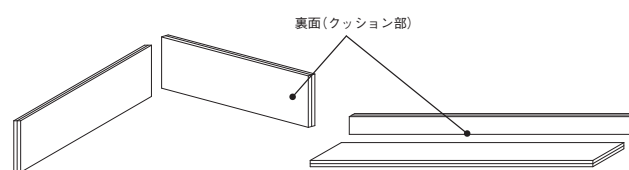
②表面からカッターナイフで木質部を切断します。



③裏返して、表面と同じ位置に印を付け、裏面のクッション部と残った木質部を切断します。



④最後は軽く曲げて割ります。



⚠ ●カッターナイフを使用する際は必ずカッターマットと軍手を使用して切断してください。

▶丸鋸を使用する場合

②裏面の離型紙が剥がれないよう注意しながら、丸鋸で切断します。

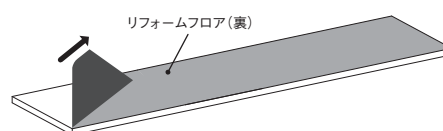
4.切断部分に紙ヤスリをかける(必要に応じて)

切断部分を紙ヤスリでこすり、平らに仕上げます。

■リフォームフロアの貼付け

5. 裏面の離型紙を剥がす

リフォームフロアの裏面の離型紙を端から剥がします。



R-Design

C-Design

木質床材

一般住宅

マンション

リフォーム

同梱

衝撃吸収

床材

天然木

フロア

化粧シート

フロア

根太施工

二重床施工

捨貼り施工

防音・直貼り

直貼り

上貼り

框・式台

階段・手摺・

室内はしご

内壁材

あかり

サポート

ぬれ縁

ラスカット

構造用

ハイベストウ

P&C-MJ

SYSTEM

設計・施工

資料編

製品掲載

ページ

174・176

カナエル リフォームフロア カナエル リフォームフロア VC

施工のポイント

※施工については必ず、施工説明書に従って正しく施工してください。

木質床材

一般住宅

マンション
直貼りリフォーム
向け衝撃吸収
床材天然木
フロア化粧シート
フロア

根太施工

二重床施工

捨貼り施工

防音・直貼り

直貼り

上貼り

框・式台

階段・手摺・
室内はしご

内壁材

あかり
サポート

ぬれ縁

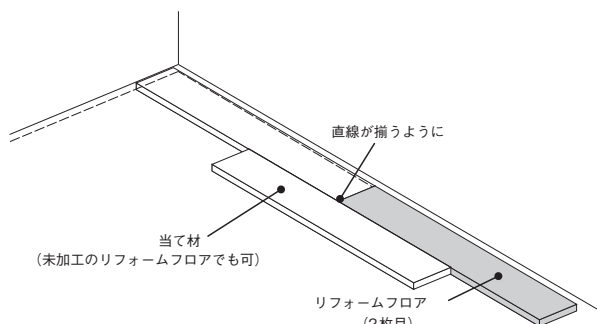
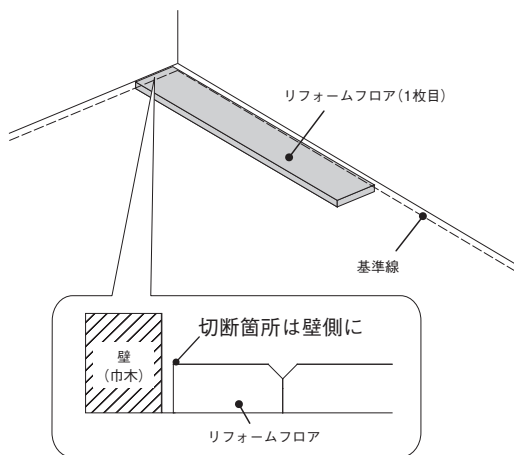
ラスカット

構造用
ハイベストウッP&C-MJ
SYSTEM設計・施工
資料編製品掲載
ページ

174・176

6.1列目を貼付ける

- ①貼付ける前にリフォームフロアを1列分並べ、両端の寸法が150mm以上となるように、リフォームフロアの貼始め／貼終わりの寸法を決めます。(■納まり例参照)
- ②必要に応じて、貼始め／貼終わりのリフォームフロアを切断します。(手順2. 参照)
- ③基準線に合わせて、1枚目のリフォームフロアを貼付けます。
- ④2枚目以降のリフォームフロアを貼付けます。1列目の貼付けのみ、**手前側の直線が揃うように**手前側に当て材をしながら貼付けてください。



貼付けのポイント①

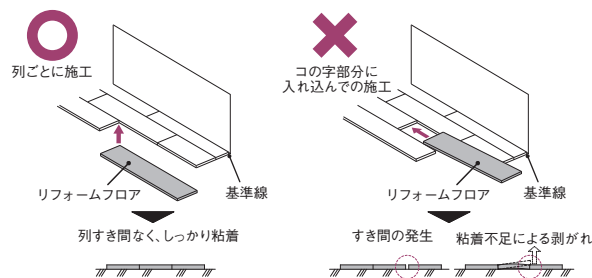


リフォームフロアは、上から押さえるだけではなく、**外側に押し広げる**イメージで貼付けます。

- ▲ ●切断のバラつき等で基準線に合わない場合でも、手前側(当て材側)の直線が揃うように貼付けてください。1列目が直線に施工されていないと、貼り進めていくうちに大きなズレが生じます。
- 部屋に柱等の凹凸がある場合は、『凹凸部の切欠き方法』(P.323)を参照してください。
- 既存の床面に段差がある場合は、『既存の床面に段差があるとき』(P.323)を参照してください。

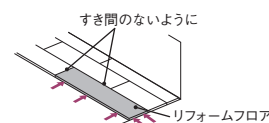
7.2列目以降を貼付ける

手順6.を参照して、1列目同様、1列ずつリフォームフロアを貼付けます。



貼付けのポイント②

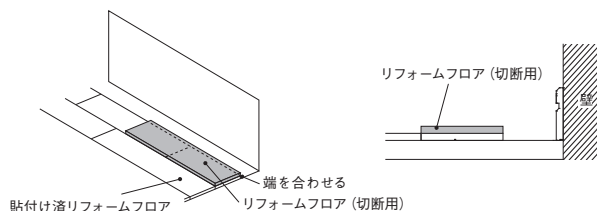
2列目以降は、貼終えたリフォームフロアとの間に、**すき間のないように**、斜めに押し込むイメージで貼付けます。



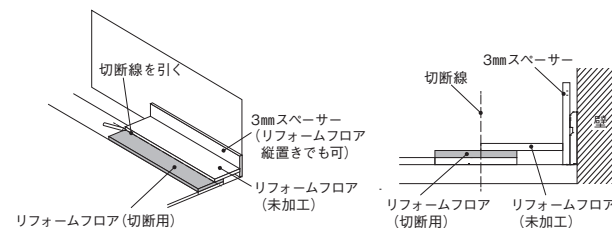
- ▲ 1列貼るごとに、すき間／ゆがみがないかを確認し、すき間が空いた場合はリフォームフロアを一度剥がしてから貼直してください。すき間が空いたまま施工していくと、後の列でゆがみが大きくなり、修正が難しくなります。

8.最終列を貼付ける

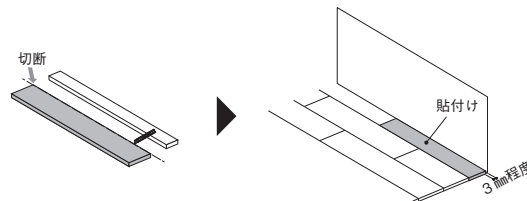
- ①貼終えた1列前のリフォームフロアにリフォームフロア(切断用)を重ねます。



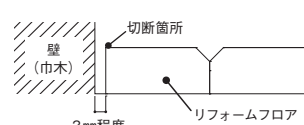
- ②リフォームフロア(切断用)の上に、新品のリフォームフロアをもう1枚重ね、壁に押し当てます。その際、壁とのすき間を確保するため3mm程度のスペーサーをはさみます。次に、上側のリフォームフロアを定規にして、リフォームフロア(切断用)に切断線を引きます。



- ③切断線に沿ってリフォームフロアを切断します。手順7.を参照して、重なっていない側を最終列として貼付けます。



- ▲ リフォームフロアの貼終わりと部屋の巾木(壁)との間に3mm程度のすき間があることを確認してください。



カナエル リフォームフロア カナエル リフォームフロア VC

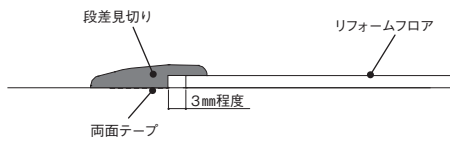
施工のポイント

※施工については必ず、施工説明書に従って正しく施工してください。

■段差見切りの取付け

9. 段差見切りを取付ける

開口部等、リフォームフロアの端部が壁際以外で露出する箇所には、段差見切りを取付けます。段差見切りは、裏面の両面テープ離型紙を剥がし貼付けます。



- リフォームフロアの端部が開口部に露出する場合は、必ず段差見切りを取付けてください。段差見切りを取付けないと、使用時に端部の段差に引っかかり、リフォームフロアの剥がれを引き起こすとともに、使用者がケガをするおそれがあります。
- 差込みタイプの見切り材は段差によるフロア剥がれの原因となるため使用しないでください。



■施工後の確認

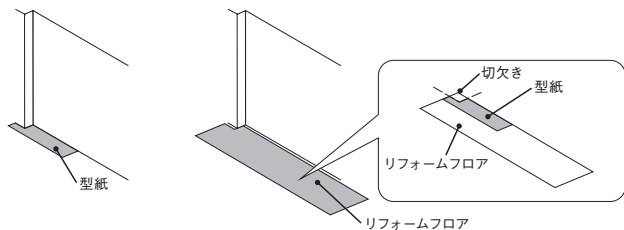
- リフォームフロア全体が確実に圧着され、浮き／床鳴りのないことを確認しましたか。
- リフォームフロアの周囲には、3mm程度のすき間を確保していますか。

■残ったリフォームフロアの取扱い

- 施工後にリフォームフロアが残った場合には、補修用として大切に保管しておくことをお勧めします。

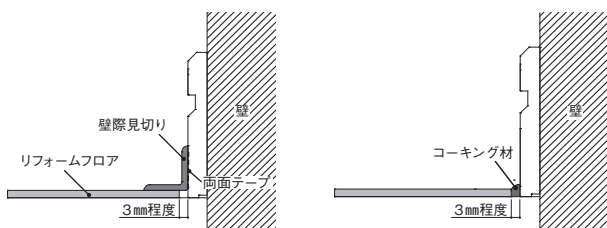
凹凸部の切欠き方法

壁際に柱等の凹凸がある場合、型紙を作る／寸法を測る等を行い、リフォームフロアに切欠きを入れてください。



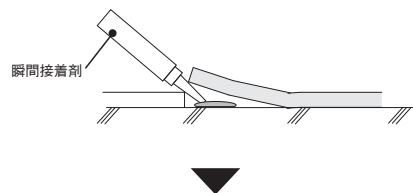
壁際のすき間を納めるには

壁際のすき間が気になる場合には、■納まり例を参照し、壁際見切りを取付けます。壁際見切りは、裏面の両面テープ離型紙を剥がし、壁または巾木に貼付けます。部屋に凹凸部等があり壁際見切りを使用できない箇所は、市販のコーキング材等で納めてください。



使用中にリフォームフロアの端部が浮いてきたときの補修方法

- ① 浮いてきた端部から、市販の瞬間接着剤を塗布します。



- ② 接着剤が硬化するまで、フロアが浮かないように上から押さええます。



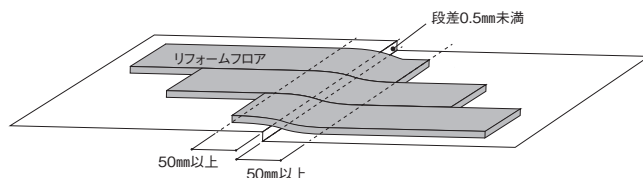
- ⚠ 瞬間接着剤が表面にはみ出した場合は、接着剤に対応した市販の剥がし液を使用して取除いてください。

既存の床面に段差があるとき

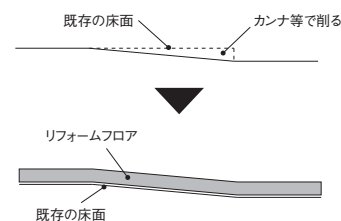
既存の床面に段差がある場合、段差からフロア端部まで50mm以上離れるように施工してください。

※0.5mm以上の段差がある場合はカンナ等で平らに補修してから施工してください。

▶0.5mm未満の段差がある場合



▶0.5mm以上の段差がある場合



R-Design

C-Design

木質床材

一般住宅

マンション
直貼り

リフォーム
向け

衝撃吸収
床材

天然木
フロア

化粧シート
フロア

根太施工

二重床施工

捨貼り施工

防音・直貼り

直貼り

上貼り

框・式台

階段・手摺・
室内はしご

内壁材

あかり
サポート

ぬれ縁

ラスカット

構造用
ハイベストウッド

P&C-MJ
SYSTEM

設計・施工
資料編

製品掲載
ページ

174・176